

現場労働者を粗末にするな！

物作り現場では

仕事量の激減で他の職場に配転させられたが、何故か元の現場に応援に出される。人員が減らされて以前よりもキツイ仕事になっている。円高で海外に移転されたはずの機種が、何の説明もなく戻ってきて内作化されている。単なる在庫調整だったのでは？いつも犠牲にされるのは現場労働者である。

3月末で派遣切りされた人が、協力会社の請負だとして元の職場で以前の仕事をしている。こんな事が許されているのか。会社の社会的責任はどうなっているのか。

新製品が出るいつも現場は大混乱。試作、量産試作を以前のようにしっかりとやっておけばと思う。日程に追われ、設計者もかわいそうだ。生産改革、コスト低減等の運動だけが先行され、現場の実態は変わらないのにST（作業標準時間）がどんどん削減されている。

会社幹部が来ると言うだけで、通路の白線を張り替えたり、周辺の部品等をどこかに持って行く。帰った後にまた戻される、こんな事いつまで続けるのか。

作業量が減ったとして、人員が減らされて一週交代の夜勤に、残業もなくなりやられてられない。忙しい時期には賃金半分でベテラン労働者を再雇用していたのに、仕事量がないと再雇用希望者を認めないのか、法律違反である。



旧豊川工場の実態

パソコン生産を撤退した旧豊川工場は、新会社IEメカ（日立IEの子会社）として再出発し1年が経ちましたが、相変わらず生産はゴタゴタが続いています。

IEメカは、日立オムロンの生産拠点であるEMS（製造専門会社）として発足し、最初に行なったのが、従来の派遣を大量に切ることでした。この影響で人が足りなくなり、間接部門から現場への移動を行ってきました。昨日まで課長職だった人や、総務で仕事をしてきた人がラインに立ち、派遣の人たちと一緒に仕事をしています。

得意分野であったプリント基板製造も、技能を持った人が他のラインに移動させられたり、いやになって辞めています。そのため複雑な技能を必要とする仕事は外に出すという、製造会社でありながら、まともな製造ができない状態になるのではと不安になります。

生産に必要な技術や技能は、一朝一夕でできるものではありません。また作業を行うのは人間であり、働く人が意欲をもてない職場では不良が多発し、効率も上がらなくなるのではと、心配の声が出ています。



派遣法の抜本改正を

不況になったとたん、多くの製造現場の派遣労働者が「派遣切り」や「雇止め」で、職を失いました。現在もまだ、仕事が見つからず、失業中の人たちがいます。

派遣労働はもともと、臨時的・一時的な専門業務に限定され、製造現場への派遣は禁止されていました。ところが1999年に派遣労働が原則自由化され、2003年に製造業にまで解禁されました。これが現在の「派遣切り」を横行させ、ワーキングプアを生み出す原因となったのです。

製造現場で働く人を大切に、モノづくりを傳承していくためにも、今こそ製造業派遣を禁止し、正社員に転換する「派遣法の抜本改正」が必要です。

新しい国会で、改正の可能性と気運が高まっています。製造業派遣や登録型派遣の禁止、派遣先企業に雇用責任を負わせる「直接雇用のみなし規定」、正社員との均等待遇、専門業務の見直しなど、「派遣法の抜本改正」を要求していきましょう。



ピラや情報をホームページで見られます。

パソコン <http://hitachikon.net>

ケータイ <http://hitachikon.net/i>

仕事、生活などの相談も受け付けます。

Eメール info@hitachikon.net

TEL(携帯) 090-9121-0602(多田)



QRコードにアクセス!

日立 懇

<発行> 2009年10月
第172号

日立関連労働者懇談会

〒108-0073 東京都港区三田3-2-20

(電機労働者懇談会気付)

TEL(03)3455-6006 FAX(03)3451-3595

もよりの連絡先

茨城 029-273-2785 (舞良)

茨城 090-8747-6239 (馬場)

東京 090-3534-8626 (谷口)

神奈川 080-5060-7728 (中村)

静岡 090-9121-0602 (多田)

愛知 090-4253-1217 (成木)

大阪 06-6939-2905 (森)

止めよう派遣切り、ゆるすな賃金カット

人間らしい働き方を求めて 電機懇第22回総会開催（愛知県にて9/12・13）

「親子心中も考えた」というシングルマザーの女性は、三菱電機名古屋製作所で派遣社員として働いていて、派遣切りで解雇されました。名古屋北部青年ユニオンに加盟して団交を申し入れましたが、3回とも拒否されたので、同様に解雇された人と、3人で名古屋地裁に提訴しました。派遣切りを告発し、正社員としての地位の確認、慰謝料請求を求めて、闘っています。

河本さんは、パナソニック若狭工場で派遣社員として働いていて、昨年10月に生産減を理由に解雇されました。しかし3年10カ月働いていたため、派遣先企業の正社員として雇用すべきと、労働局に申告して、解雇撤回を勝ち取り、12月に解雇は一次凍結されました。その後、自宅待機を強いられたため、3月に正社員化を求めて福井地裁に提訴して、裁判闘争を始めています。



支援を訴える宿岩書記長

長野県にあるJMIU高見沢電機支部は、10年間にわたり、親会社の富士通による職場つぶしに抵抗して、闘っています。

高見沢電機支部の職場では、査定もなく、男女同一賃金、現場と事務・技術も同一賃金です。このような組合に対し、会社は「賃上げゼロ・一時金ゼロの兵糧攻め」を行っています。組合は解決権を持つ、親会社の富士通との団体交渉を求めて、東京地裁に提訴しています。

近頃の若いモン



政権交代で何が変わる？

8月30日。永久政権かと思われ続けてきた自民党政権がついに終わりを告げた。これほどの大きな出来事、将来は歴史の教科書に載るだろうという思いでテレビを見ていた。しかし、政権が変わって働く若者たちの仕事や暮らしはどう変わるのだろうか。非正規雇用の増加、首切りによる年越し派遣村など、前政権の悪政による若者の被害は甚大であった。安定した仕事にも就けず、結婚の見通しもない若者が、今どのくらいいるだろうか。新政権は、例えば高速道路の無料化を掲げているが、優先順位として雇用対策を先にやるべきと思う。若者だっていつまでも若い訳ではなく、不安定な収入のまま年を取ることは、やがて取り返しがつかない「大災害」となってしまうかねない。

（このコーナーへの投稿をお待ちしています。）
Eメール info@hitachikon.net にどうぞ！！



再雇用ではなく 定年延長にこっぴどい

日立コンシでは最近、再雇用を継続しないで辞めていく方が目立ちます。「今までの仕事はありません。拡張でお願いしたい。それも、県外勤務しかありません」と言われて、「再雇用をさせないために、いやがらせをしている」と怒っている方もいました。「リストラが進まなくて、825名で分社化した従業員を当初予定の750名に減らそうとしている」との声も聞かれます。

日立では、「会社が提示した職務等に本人が同意した場合に再雇用する」としており、このような「いやがらせ」を受けやすい制度となっています。さらに、「月収は原則として定年退職直前の基準内賃金水準の50%で、昇給は無し。期末手当は月手当×支給率（2ヶ月程度）を基準とする」となっており、熟練した技術を安上がりに使えて会社に都合のいいことばかり。

「長い間、日立で頑張ってきたのに、最期にこんな仕打ちを受けるとは思わなかった」という思いで日立を去る人をつくらないためにも、気持ちよく働ける定

年延長に早く切替えてほしいものです。

日立コンシ・横浜

日立オムロンで 新たなリストラ策

日立オムロンでは今年度赤字の予想となり、それをゼロにするため新たな経費削減、出向などのリストラ策が打ち出されました。

組合員には子会社への出向20名、国内旅費の宿泊費の削減、月俸者へは現行5%カットに、2.5%の上乗せ減額が10月から実施されます。さらに、間接部門の派遣切りが相当数実施されました。「赤字だったらすべて働く者に押し付けて乗り切る」というのが日立流なのでしょうか。

日立オムロン

民主党政権で 「仕事がなくなる？」

民主党政権誕生に職場では、喜びの声とともに、仕事を心配する声もでています。

民主党のマニフェストに、「高速料金無料化、無駄なダム建設中止」を掲げているので、関係する職場では、「実現したら、ETCの仕事はいらなくなる」「ダムの仕事は無くなるかも。早速八ツ場の入札が延期になった。公共事業も今まで通りにはいかないかも」などと話されています。

「すぐに影響がでることはない」となっ

たものの、政治の変化が自分たちの仕事にも直結することを実感しました。

日立・大みか

派遣会社に出向

2年前も同じようなリストラを小田原地区で行ってきた日立GSTの職場で、今回は藤沢地区で45歳以上の対象者に激しい面談、出向の強要を繰り返しています。

出向先はパソナという派遣会社で、パソナが紹介する派遣先へ面接を受けに行き、そこで就労できない理由を何度も報告させるといって、強引なやり方です。

2年前に同じような出向を執ように命ぜられ、断り、踏み止まった女性は、今回対象となっている女性たちに、自らの経験をもとに、「首切り同然」の片道切符の出向に感じないよう、励まし続けています。

日立GST



訂正とお詫び

前号（2009年9月号）で、「ゲン木クラブ」は会社の誇れる施設?」の記事において、「神奈川県保育待機児童は1300名弱」と記載しましたが、「横浜市の保育待機児童は1300名弱」の誤りでした。横浜市は「ゲン木クラブ」の所在市です。ここに訂正とお詫びを申し上げます。